

言葉の旅 スペイン語のバリエーション (1)

スペイン

今月から 12 回のシリーズで各地のスペイン語のバリエーションについてお話しします。スペイン語は世界 20 カ国で 3 億 5000 万人によって話される大言語ですが、その地域的な変異は他の諸言語に比べて少ないと言えます。それでも、発音の仕方や単語の形や意味が微妙に異なります。このシリーズではあまり細かい点には立ち入らず、各地の特徴のなかでとくに重要だと思われる点だけを説明します。

シリーズの構成は、1 旅先、2 言葉を求めて、3 言葉の広がり、の 3 本立てです。1 で各地のスペイン語の様子を簡単に紹介し、2 でスペイン語のバリエーション研究について説明し、3 で共通のコンセプトについて、世界中のスペイン語を見渡すことにしましょう。私たちの研究グループの調査結果の一部をピックアップします。



【写真 1: マドリードの街の案内板】

旅先...スペイン

スペイン語圏の全体は、その言語的な特徴によってふつう次のように分類されます。

- (1) スペインと赤道ギニア
- (2) カリブ海諸国
- (3) メキシコ・中米
- (4) コロンビア・ベネズエラ
- (5) アンデス諸国
- (6) ラプラタ諸国

私たちも、この順番で各地のスペイン語を見ることにしましょう。今回はスペインです。

スペインはEU (Unión Europea)に加入し、経済成長も順調でその活力を私たちは1992年のバルセロナ・オリンピック(Juegos Olímpicos)や Sevilla で開催された万国博覧会(Exposición Universal)で目の当たりにしました。首都Madridの発展振りには目を見張るものがあります。道路や地下鉄の交通網がどんどん整備され、街の案内板は年々塗り替えられています。去年(1999年)マドリード・バラハス空港(Aeropuerto de Barajas)に降り立ったとき、すでにここまで地下鉄(metro)が開通していました。



【写真 2: バラハス空港の地下鉄】

空港などで各国の人々が話すスペイン語を聞いて、一番わかりやすい違いの特徴は発音でしょう。単語や文法に目を引く点もありますが、それは徐々

に見つかります。それに対して発音の違いはすぐに気づきます。スペイン(中北部)のスペイン語の特徴は、舌先が歯の間から見える[θ]の音と、j, gi, geの子音が[x]という強い摩擦音になること、そしてsが「シュ」のように聞こえることです。

文法的な特徴としては、vosotrosの代名詞と動詞の活用(cantáis, coméis, vivís),そして、直接目的語の人称代名詞のloの代わりにleが用いられることです(Le conozco.「私は彼を知っています」)。これだけを抑えておけば十分です。

一方単語の違いは無数にあります。たとえば、「コンピュータ」(computador)をordenadorといたり、「切符」(boleto)をbilleteといます。次の表はスペインとラテンアメリカで異なる形が使われる例です。日常生活に関する言葉を集めてみました。

意味	スペイン	ラテンアメリカ
セーター	jersey	suéter
ジャンパー	cazadora	casaca, chamarra, chompa, chumpa
作業衣	mono	jardinero, jardinera, mameluco, overol
スポーツウェア	chándal	buzo, mono, sudadera, traje deportivo
(女性用)水着	bañador	malla, ropa de baño (スペインでも使います), traje de baño, trusa, vestido de baño
冷蔵庫	frigorífico	frigidaire, frío, refrigerador, nevera (スペインでも使います)
リモコン	mando (a distancia)	control (remoto)
ヘッドホン	cascos	audífonos
ステレオのスピーカー	altavoces	bocinas, parlantes
デッキチェア	hamaca, tumbona	cheslon, perezosa, playera, reposera, silla de extensión, silla de sol, silla plegable, silla reclinable
パチンコ(玩)	tirachinas	cauchera, gomera, honda, hondilla,

具)		hondita, hulera, resortera, tirapiedras, cata
長距離電話	conferencia	larga distancia

準備

スペインを第一に取り上げた理由は歴史的なものです。ラテン語から発達した中世のスペイン語が、近代になって一挙にラテンアメリカ諸国に広がったので、伝統的なスペインを出発点にして比較したほうがわかりやすいからです。もちろん、現代の視点からはラテンアメリカのスペイン語も重要ですが、ここではどちらのスペイン語が重要だとか、どちらを学ぶべきか、ということではなくて、「世界のスペイン語」というレベルで考えたいと思います。

「伝統的なスペインのスペイン語」といっても、どんどん変化しています。社会・文化的な条件がどんどん変わっていくので、言葉も当然それに合わせて変わっていきます。ここで現代生活の中で見つけた新語をいくつか紹介しましょう。contestador「留守番電話」、culebrón「(とくにメキシコやベネズエラで製作され、スペインで放映されている)連続テレビ小説」、estrés「ストレス」、móvil「携帯電話」、teletienda「テレショップ」。このような語はまだ辞書に登録されていないので要注意です。最新の情報は現地からの報道(新聞・ニュース)や印刷物、研究報告などで補わなくてはなりません。私はいつも記録用の手帳を手元に置いて、気づいたことは必ずメモすることにしていきます。

こうした間接的な資料も役に立ちますが、現地調査で各地のスペイン語をダイレクトに観察・調査するのに越したことはありません。かつてはスペイン語圏の国々ははるかに遠く、なかなか自由に旅行ができませんでした。しかし現在では航空運賃もずっと安くなり、各地の情報も手に入れるのが比較的容易です。私たちのグループは毎年1~2回の調査を行っています。

調査の準備段階で日程はかなり具体的に決めておき、現地では微調整をする程度です。とくに現地の協力者とのコンタクトが重要ですが、最近ではEメールでやりとりができ、非常に能率がよくなりました。調査では記録用のメモ帳とカメラは必ず携帯し、テープレコーダ、ビデオ、ラップトップパソコンも必要に応じて加えます。

言葉の広がり...「メガネ」

私たちの研究グループは世界のスペイン語のバリエーションを記録しています。バリエーションの例として、今回は「メガネ」を取り上げましょう。スペインなどでは *gafas* (地図で G と記された地点) と言いますが、ラテンアメリカで優勢なのが *anteojos* (A)と *lentes* (L)で、さらにカリブ海諸国では *espejuelos* (E)も使われています。

世界のスペイン語のバリエーションは次のホームページでも見ることができます。

<http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/varilex.htm>



【地図】「メガネ」

【課題-1a】スペインのスペイン語の音声的特徴として、「舌先が歯の間から見える[θ]の音と、j, gi, geの子音が[x]という強い摩擦音になること、そしてsが「シュ」のように聞こえる」ことを示しましたが、これを音声学の用語と

調音点の図によって説明しなさい。

【課題-1b】「直接目的語の人称代名詞の *lo* の代わりに *le* が用いられること」は *leísmo* と呼ばれる現象です。このことについて、さらに詳しい文法書で調べなさい。

【課題-1c】次の文献を参考にして、スペイン語圏の方言区画を簡単にまとめなさい。

Lipski, John M. 1994. *Latin American Spanish*. London, Longman, pp.3-33; *El Español de América*, Madrid, Cátedra (trad. Silvia Iglesias Recuero), 1996. pp.15-47.